
夢見る少女

金木犀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢見る少女

【Nコード】

N0380Z

【作者名】

金木犀

【あらすじ】

少女、ルナ・ブラウンは夢を見る

幼いころから気付けば、同じ視点で同じような内容の夢を毎日毎日見ていた。夢の内容は決まって白い何かと居る夢

普通の夢を見た事のない彼女はそれゆえに村の子供たちから孤立していた

何時かの夢は夢を見ずどこまでも普通の少女でいること

見切り発車の下書きなし・・・どうなる事やら・・・

暇つぶしにやらず

序章

夢を見る

途切れ途切れの夢は、私がとても幼いころから気付けば、見ていた途切れ途切れの夢の割に現実味のある温度を感じる故に、幼いころは夢が現実なのか、現実が夢なのか、夢と現実の境界がわからず混乱し、何もないのに涙腺が決壊したり表情が固まって能面のようになったり我ながら狂う寸前だったように思う

そんな私が今、こうして一応無事に生きているのは、一重に、昔も今も変わらず愛情を与えてくれる両親の御蔭だ

今でも、夢は見る

現実味のある夢の内容はほとんど内容は変わらず、白い何かと話しているというもの

何か、なんてかなり抽象的だが仕方ない。そもそも夢というのは具体的に覚えているものじゃないのだし

夢の視点は何時も変わらない。大体白い何かと話していて、たまにその何かに寄りかかっていたりする

奇妙な夢だ

夢と割り切るには、長く見過ぎだし、ずっと内容が同じだなんてオカシイらしい。

気付いたらこの夢を見ていた。否、この夢しかみない。

村の同い年の子たちの様に、美味しいお菓子を食べる夢だって、友達と遊ぶ夢だって、勉強道具に埋もれる夢だって見たことない。みんなから言わせれば異常

私はオカシイらしい・・・

人と違うと浮くのだ

だから私は何時だつて村の裏手の山の頂上、大きな大きな樹の上の立派な枝に腰掛けて空を見る

空は同じだ

表情は毎日毎時間変わるけれど、空も太陽も月も、皆と同じものを見ている

私が人と違う事なんて、夢を見る事だけなのだ

太陽は西に沈もうとしている

太陽の沈む先には大きな町が幾つもあると聞くし、王都もあると聞く王都には魔術師がいるらしいから、きっと夢を見ないようにだってしてくれる

何時か王都へ

そして何時か普通の女の子になりたいと

不思議な夢を見る少女、ルナ・ブラウンは太陽の沈む先を見つめるのだった

第一話

四方を囲まれた大陸の東端の国フェーブス

王政のこの国は他国に比べても緑の多い豊かな国で、更に海流によつて豊かな漁場を育む海にも面しているために大陸の中でも栄えている国である

そんなフェーブスの東の端、中心にある王都からはかなり離れている緑豊かな田舎

そこがルナ・ブラウンの暮らすベルク村である

「ルナ、おめでとう」

「学園に行ってもちゃんと連絡するんだよ」

「いつでも村に帰っておいで」

次々に村民から声をかけられているのは今年13歳になったルナである

彼女は今年、王都にある国立の魔術学園ヴァルスの難関入試試験に見事合格し、入学するのだ

ヴァルス学園は近隣諸国にまでその名を響かせる名門私立校だ
巨大な学校で6年制、優秀な成績を修めた者は王宮に登用される事も多い

又、魔術学園と銘打っているが、学園には幅広い分野のコースがあり一概に魔術師志望者のみが入学するわけではない。どの分野においても第一線で活躍する卒業生が多いためその倍率は非常に高く500倍

非常に狭き門なのである

そんな超有名校に田舎町から入学するとあって、ベルク村ではお祭り騒ぎだ

そんな中で、ルナは困ったように、切なげにしていた

別に生まれ育った村から出るのが今さら寂しいとか言うわけではない

彼女を祝福し、見送っている人間の中に、一人も彼女と年の近い子供がいない事が原因だった

大樹に上り西の空を眺めていたところと変わらず、むしろヴァルスに入学する事でいっそう、村の子供たちとの溝を深めに深め、最早その溝は埋まらないのではと思わせるほどに深く彼女の力での修復は不可能

小さくため息を吐き、振り切るように笑顔を見せて、彼女は馬に跨った

ベルクからヴァルス学園まで馬を走らせ10日掛かる。気持ちが暗いままでは馬だって調子を上げることとはできないだろう

「ロート、一緒に頑張ろうね」

鬣を撫で、村人に挨拶し、腹を蹴って生まれ育った村を出て行った

ロートは父がくれた馬だ

馬と言っても普通の馬ではなく、天馬の仲間だ

天馬は羽を持ち白い体躯に瞳は紫、額に鋭い角を持つ

対してロートは、二mはあるがうちりして立派な体躯を持ち、角こそ同じだが羽を持たないし黒い体躯に紅い目だ。

彼は天馬の中で異端だった。外れ者として死にかけていたところを父が見つけ、家に連れ帰った
長くはないだろうと言われたのに、私はそのまま逝かす事が出来なくて、私が看病すると言い張り、父に強請り、なんとか許可をもらって看病した。

一週間後に駆けまわれるようになるほど元気になったロートを改めて譲り受けたのだ

彼に翼が無いからどうだというのだろう

彼には翼がない代わりに昼夜走り続ける脚力がある

熊を倒す臂力を持つ

ロートはロートなのだ

「ロート、入寮式まで時間はあるし、休みたいときは無理しないでね。」

<承知>

「絶対言つんだよ。無理しない事。」

<・・・・・・・・・・是>

言質は取つたと頷いて、ルナは凄いスピードで変わっていく景色を見ながら王都に夢を馳せた

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0380z/>

夢見る少女

2011年12月1日17時00分発行